

令和8年度 市長との対話集会（宮川地区） 議事要旨

日 時：令和8年9月2日（水）19時00分～20時30分

場 所：宮川コミュニティセンター

参加者：16名

テーマ：「サバ缶、宇宙へ行く」のその先へ ～小浜の挑戦から考える学びとブランドづくり～

1 参加者からの主な意見

(1) 交通・生活環境の改善と企業誘致

- ・コミュニティバスなど、公共交通機関の便数が少なく不便。定住促進のために交通整備が必要。
- ・働き始める世代向けに、市内の企業情報や職種を紹介する冊子等を作成し、地元での就職を促す。
- ・人が集まる大規模商業施設（例：イオンモール）や工業団地などの整備が必要。

(2) 地域資源を活かした観光とブランドづくり

- ・ひまわり畑の開花時期をまとめたロードマップやカレンダーを作成し、SNS等で発信する。
- ・宮川特産の「鳳足石（ほうそくせき・赤石）」や、大谷区の綺麗な水を利用して「わさび」を栽培するなどしたブランドづくりが出来れば良い。
- ・伝統行事や田んぼアートとひまわり畑の時期を組み合わせ、観光客が繰り返し訪れる仕組みを作る。

(3) 次世代に向けた教育・食育

- ・スポーツを通じた他地域との交流や、地域全体での探究学習を推進する。
- ・御食国の食文化（へしこ、くずまんじゅう等）を学校の実習で作り、地域への愛着を育む。

(4) 空き家活用と地域コミュニティの課題

- ・人口減少が進む中、地域での役職等の負担が重く、新規移住者がすんなり地域に入りづらい現状がある。行政区の見直しや負担軽減が必要。
- ・空き家を活用し、民泊施設や農業体験ができる拠点、地域の活動部屋として利用する。

(5) 新たな挑戦（特産品・PR）

- ・獣害の問題となっているイノシシやシカ（ジビエ）を活用した特産品（ジャーキー、カレー等）を開発する。
- ・地元企業の商品やサービスを、SNS等で積極的にPRしていく。

(6) 「若狭」ブランドの戦略的活用

- ・「若狭」という名称は全国に通用する強力なブランドであるにもかかわらず、小浜市のものとして十分に定着・活用されていないのではないかと。

2 市長からの主な回答

(1) 交通・生活環境・企業誘致について

- ・スクールバスとコミュニティバスの連携（混載）により、交通の不便さ解消に向けた仕組みを模索する。

- ・地元企業を知るための「お仕事図鑑」の提案は面白い。担当課に共有し、子どもたちが親の仕事や地元企業を知る機会を創出できると良い。
- ・新産業団地には働く場所だけでなく、スーパー等の生活利便施設を併設できるよう検討する。
- ・大規模施設等の誘致については、北陸新幹線の全線開業（20～25年後）を見据え検討していきたい。

(2) 観光・ブランド化について

- ・VTuber や SNS を活用したひまわり畑の開花状況の定期発信は、地元ならではの、ぜひ取り組んでいただきたい。また、持続可能な運営のために、ひまわり畑に「VIP 席（結婚式等での有料利用）」を設けて翌年の運営費を稼ぐなど、自走化の仕組みづくりに取り組んでいく視点も重要である。
- ・宮川特産の「鳳足石（ほうそくせき）」の歴史的価値のを発信や、大谷区の豊かな水環境を活かした「わさび園」の開設など、地域資源のブランド化に地域としても取り組んでいただきたい。

(3) 教育・食育・探究学習について

- ・他地区の子どもたちが宮川で体験学習を行うなど、地域間交流型の探究学習の幅を広げていきたい。
- ・学校での食育体験（生産・調理・消費）は地元を知るうえでも大変貴重な経験になっている。また、食の素晴らしさを知ること、生産者や調理師など将来の職（仕事）としての選択肢になってくれると嬉しい。

(4) 空き家活用とコミュニティ維持について

- ・大学生が空き家をリノベーションし、ゲストハウスとして管理しながら収益を得るという先行事例なども参考に、若者による空き家管理ができると良い。
- ・地域の役職負担について、ゲーム感覚を取り入れるなどの工夫で参加ハードルを下げ、移住者も入りやすい地域コミュニティを維持できる方法を地域と共に考えていきたい。
- ・農業体験と宿泊をセットにする体験型移住の促進など、地域ぐるみで移住希望者をサポートする体制づくりが出来ると良い。

(5) ジビエ商品開発について

- ・ジビエ（ローストビーフやハンバーグ等）の特産品開発に賛同。地域の課題を「稼ぐ」に転換していくことは非常に重要である。

(6) 「若狭」ブランドの広域的な活用

- ・嶺南地域の人口減少を踏まえ、近隣自治体と名称を奪い合うのではなく、地域全体を包括するブランドとして県外へ積極的にアピールしていく。
- ・市では、これまでも各種 PR 事業において「若狭小浜」というフレーズを使用しており、今後もこの名称を活かして発信を続けていく。
- ・将来的な新幹線の新駅名にも「若狭」が含まれる可能性がある。関西圏からの「若狭＝海」という強いイメージも踏まえ、引き続き「若狭小浜」のブランド戦略を皆さんとともに検討していきたい。